

第 66 回北日本図書館大会北海道大会・第 57 回北海道図書館大会概要

- 1 日 時 平成 27 年 6 月 25 日（木）～26 日（金）
- 2 会 場 札幌市教育文化会館 小ホール ほか
- 3 参加者数 287 名（講師・運営者含む）
- 4 内 容

（1）特別講演（トークライブ）「生まれた土地と小説」

講師：作家 桜木 紫乃 氏

進行：FMくしろパーソナリティ 大津 桃子 氏

釧路市出身の直木賞作家、桜木紫乃氏の作家としての日常、図書館にまつわるエピソード、さらには北海道で書き続ける理由について、参加者から事前に寄せられた質問への回答を交えながら、FMくしろのパーソナリティ・大津桃子氏とのフリートークにより語られた。途中、出版社の編集担当者がトークに加わり、作家と編集者、出版社との関わりや、映画化し今秋公開される作品についてなどにも話題が広がった。桜木氏からは、図書館に対し「迷える書き手と迷える読者のため頑張っ

てほしい」とエールが送られた。参加者からは、『「図書館利用者の中には明日の書き手がいるかもしれない』との言葉を忘れず心をこめて対応したい」「トークライブという形で桜木紫乃さんのお人柄を知るとともに、たくさんのお話を聞くことができた」といった感想が寄せられた。



（2）第 1 分科会「知的好奇心を刺激する棚づくり ～なぜ図書館に人が集うのか～」 （130 名）

講師：富士大学経済学部教授（図書館学専任担当） 早川 光彦 氏

南相馬市立中央図書館、紫波町図書館、一関市立川崎図書館の実例をもとに、魅力的で多くの人に期待される図書館となるために、資料提供の基本を徹底して守り、地域の事情に沿った柔軟なサービス提供に取り組むことが提起された。

「やってみようと思える事例が多く、今ある書架の制限はあるが、まだやれることがあると感じた」「すぐれたデザインは人を幸せにする、ということを肝に銘じたい」との声が聞かれた。



（3）第 2 分科会「プリント・ディスアビリティのある利用者のための資料電子化サービス」 （34 名）

講師：北海道大学教育学研究院准教授兼特別修学支援室相談員 松田 康子 氏

講師：北海道大学附属図書館 小林 泰名 氏

講師補助：北海道大学附属図書館 栗田 とも子 氏

「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」（国公私立大学図書館協力委員会、全国公共図書館協議会、全国学校図書館協議会等2010年策定）に基づき、北海道大学附属図書館で行なっている著作物の電子的複製の試行について報告があり、特別修学支援室や図書館員らの視点から意見が交わされた。

「障害者差別解消法前夜にふさわしい分科会だった」「利用者のニーズの把握や、北大附属図書館の取組みについて具体的に示され、大変参考になった」との感想が寄せられた。

(4) 第3分科会「北海道からの発信『逆境が生む創造』」
(33名)

講師：有限会社エアーダイブ代表 田中 宏明 氏
北海道初のドキュメンタリー漫画『義男の空』を描き、出版した講師により、北海道の出版事情を交えながら、創作から制作・出版までの道のりと、北海道からの情報発信について話があった。

参加者からは、「出版にかかる熱い想いが伝わり、障がい者支援にも関わる素晴らしい内容だった」といった感想が寄せられた。



(5) 第4分科会「暮らしに寄り添う図書館」 (67名)

講師：北海道ブックシェアリング代表 荒井 宏明 氏
英国のロンドン・イーストエンド地区に、「アイデアストア」という新しい考え方に基づく図書館がある。移民街に8日間滞在し、ひとりの住民として図書館を利用した経験をもとに、図書館が地域に果たす役割について話があった。

「日本の図書館も、各地域の特性やニーズに合わせて“なくてはならないもの”に変わっていかなければならない」という参加者の感想が寄せられた。

(6) 第5分科会「つながる図書館が描く未来」 (108名)

講師：文筆家／ハフィントンポスト日本版記者 猪谷 千香 氏
全国の新しい取り組みにチャレンジする図書館事例を紹介しながら、図書館の中だけに閉じることなく、外とつながり、地域のコミュニティの核になろうとする図書館像を示す話があった。

「地域の問題や特色に対応し、市民を中心に取り組むことが図書館の利用増につながると感じた」との感想が聞かれた。



(7) 報告「札幌市電子図書館について」

報告者：札幌市中央図書館情報化推進担当係長
久保 孝行 氏

平成26年10月に開始した札幌市電子図書館について、サービスの概要と、利用状況等について報告があった。

「電子書籍の可能性を考えさせられる内容だった」との感想が寄せられた。

